

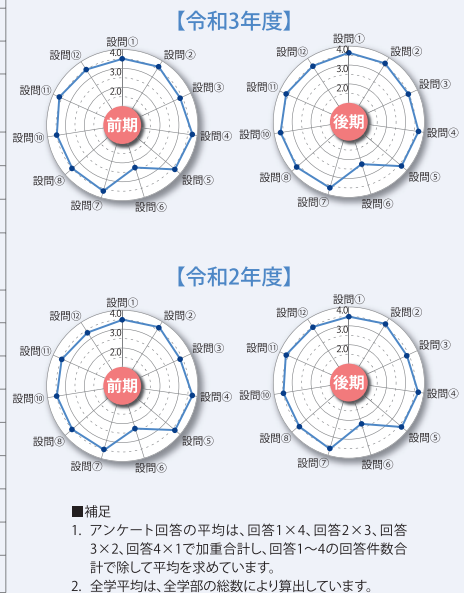
【令和3年度(前期・後期)授業アンケートの実施報告】

教育開発センター長 荒木 智行

表1 アンケートの設問

設問	令和3年度		令和2年度	
	前期	後期	前期	後期
■設問① 私は、この授業科目の目的と意義を理解できた。	3.5	3.6	3.5	3.5
■設問② 私は、この授業科目に意欲的に取り組んだ。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問③ 私は、この授業科目の到達目標を達成した。	3.4	3.5	3.4	3.4
■設問④ この授業科目は、授業計画の内容どおり進められていた。授業計画に変更があった場合に、変更点についての説明があった。	3.7	3.7	3.7	3.7
■設問⑤ この授業科目において、事前・事後学習の内容及び指示は適切だった。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑥ 私は、この授業科目の事前・事後学習を行った。(レポート作成時間を含む)	2.4	2.4	2.4	2.3
■設問⑦ この授業科目において、到達目標、評価種別及び評価基準について説明があった。	3.6	3.6	3.5	3.6
■設問⑧ この授業科目において、シラバスに記載されている能動的学習の授業手法(ミニッツペーパーなど)を実行していた。	3.5	3.6	3.5	3.5
■設問⑨ この授業科目において、適切なタイミングで理解度の確認を行っていた。	—	—	—	—
■設問⑩ この授業科目において、学生の意見に対するフィードバック(改善)等を実行していた。	3.5	3.6	3.5	3.5
■設問⑪ この授業科目において、授業を妨げる行為(私語・携帯電話等)に対し、適切に対応していた。	3.6	3.6	3.5	3.6
■設問⑫ 私は、総合的に、この授業科目の教え方に満足した。	3.5	3.5	3.4	3.5
■設問⑬ この授業科目において、良かった点を以下の項目から3つまで選んでください。	—	—	—	—
■設問⑭ この授業科目において、改善して欲しい点を以下の項目から3つまで選んでください。	—	—	—	—
■設問⑮ この授業科目において、授業の速度についてはどう感じましたか。	—	—	—	—
■設問⑯ この授業科目において、課題の量についてはどう感じましたか。	—	—	—	—
■設問⑰ この授業科目についての意見がありましたら記入してください。	—	—	—	—

表2 レーダーチャート



本学では学修の可視化を図るとともに学生の意見をシラバスに活用することを目的として、Webを利用した授業アンケートを実施している。表はアンケートの設問であり、それらを以下の5つの観点にまとめて評点の平均を算出して検討した。「学生の自己評価(設問①、②、③、⑥)」、「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問④、⑤、⑦、⑧)」、「学生、教員双方の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」、「授業実施に対する評価(設問⑪、⑬、⑭、⑮、⑯)」、「学生の満足度(設問⑫)」。アンケートは合計16問と設問⑰の自由記述から構成し、設問①~⑧、⑩~⑫は4段階評価、設問⑨、⑮、⑯は3段階評価で、大きい数字を高い評価としている。なお、設問⑬、⑭は7項目の選択肢から3項目選択することになっている。また、評点については、4段階評価の項目のみ算出している。

●前期(回答者数:のべ24,739人/39,546人、回答率:62.6%)

「学生の自己評価(設問①、②、③、⑥)」:3.2、「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問④、⑤、⑦、⑧)」:3.6、「学生、教員双方の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」:3.5、「授業実施に対する評価(設問⑪、⑬、⑭、⑮、⑯)」:3.6、「学生の満足度(設問⑫)」:3.5

●後期(回答者数:のべ20,257人/38,231人、回答率:53.0%)

「学生の自己評価(設問①、②、③、⑥)」:3.3、「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問④、⑤、⑦、⑧)」:3.6、「学生、教員双方の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」:3.6、「授業実施に対する評価(設問⑪、⑬、⑭、⑮、⑯)」:3.6、「学生の満足度(設問⑫)」:3.5

「学生の自己評価」は前期3.2、後期3.3であり、他の項目と比較して低値であった。この結果は授業科目の事前・事後学習(レポート作成時間を含む)時間の少なさ(週に2時間未満が前後期平均35.4%、週に1時間未満が前後期平均22.5%)に起因すると考えられる。「シラバスに基づいた授業実施に対する評価」は前期後期とも3.6であり、授業を進めるにあたって必要事項が説明され、計画どおりに実施されていたことが推測された。「学生、教員双方の授業実施に対する評価」は前期3.5、後期3.6。「授業実施に対する評価」は前期後期とも3.6であり、授業に能動的学修の授業方法を導入し、学生の理解度を確しつつ学生の意見についてもフィードバックが行われ、授業が円滑に実施されていたことが推測された。「学生の満足度」は前期後期とも3.5であり、昨年度より向上しており、多くの学生が授業に満足していたことが推測された。

なお、設問⑯の授業科目について良かった点では、「説明の仕方」(前期29.2%、後期29.0%)、「授業の資料」(前期後期とも30.5%)、「話し方」(前期19.8%、後期19.0%)の3つが多く選択されていた。全体的に昨年度より向上しており、対面・オンライン授業ともに丁寧な授業作りを試行されたのではないかと推察される。また設問⑭の授業科目の改善点では「特になし」を選択したものが65%を超えていた。また、「説明の仕方」(前期8.6%、後期7.2%)、「話し方」(前期6.9%、後期5.6%)、「板書の仕方」(前期5.8%、後期4.3%)が多く選択されていた。改善点についての数値は、全体的に昨年度よりやや少なくなっている。本授業アンケートは全教員の全科目を対象とし、2017年度から始まり2021年度までの5年間実施した。結果は教員に迅速にフィードバックされ、授業方法はもちろんのことシラバス作成においても極めて重要な資料となっている。学生もその結果をWeb上で閲覧することが可能であり、履修計画時に活用している。

昨年度は、多くの授業は対面授業に戻ったがオンライン授業も少なからず行われた。このようなハイブリッドな状況下で、それぞれを補う丁寧な資料作りや説明に気を使われたことが推察される。ただ、授業実施および学生の満足度は向上したが、学生の学修時間の少なさが目立っている。2021年度の授業科目に対する「学生の自己評価」の各設問の前期と後期の評点平均は、①授業科目の目的と意義を理解できた:3.6、②授業科目に意欲的に取り組んだ:3.6、③授業科目の到達目標を達成した:3.5、⑥授業科目の事前・事後学習を行った:2.4であった。すなわち、事前・事後学習はしていないが、授業の目的と意義を理解して意欲的に取り組み、到達目標に達していると解釈できる。短絡的ではあるが、学生が主体的に学修する環境を整えて学修時間を増加させることができれば、授業科目の到達目標を引き上げて学生の能力をさらに向上させることが期待できる。各科目の事前・事後学習に限らず、学生の能動的な学修を促すためには、HIT.E▶2024のPBLをはじめ各科目でのアクティブ・ラーニングの導入によって、学生の興味・関心がこれまで以上に高まっていることを感じる結果であり、引き続き新カリキュラムによる学生の興味・関心が高まることを期待したい。

なお、今回のアンケート回答率は前後期の平均で57.8%であった。実態をより正確に把握するためにアンケート期間中の授業の終わりに回答する時間を設けるなど、回答率を向上させる必要がある。